

## 北海道でも経験した 日本人の生存意志の希薄さ

最初に台風18号の被害にあわれた方たちへのお見舞いを述べたい。地域によっては農地の冠水、農作物の被害、もつとも残念な人的被害も発生したようだ。先月号で「今年は台風が少なく……」と書いた。よく読んでいただくと本州では多くても北海道では少ない……。間違いではなかったが大変なことになった。普通10月に入れば台風も少なく、発生してもそれほど被害ではない。その辺の気象を分かって注意して書いたつもりだったが、配慮が足りなかったことを認めなければならない。

小学生の頃は台風の降雨で1週間ほどボートと船着き場を使って50m離れた学校に通い、それが2年間続き、収入が全くなかったこともあったと父から聞いた。現在では一晩で150mm程度の雨であれば、なんとか実害がなくなったことは地元諸先輩と行政の予算付けの努力であるのは間違いない事実。私の地域も含め過去の悲惨な自然災害の経験から学び、将来の防災意識を高めることの意義は大きい。

さて、ここからヒール話になる。私の住む町の人口は1万2000人、半分の6000名が市街地区だ

が、農村部と比べても水害などの自然災害地域が少ない。札幌がなぜあの場所で繁栄したのかを考えた場合、**本州からのスケベ**がたくさん集まってスキノができて、その後ゲイも加わり現在の街になったから……ではないようだ。多くの開拓地と同じように川沿いで交通の便の良い場所、具体的には水害が少なく、日照時間が長く農作物がより多く収穫できる地域が、将来の街へと変化したようだ。もつとも、だからといって自然災害から100%避けられるわけでもないが。

TVの映像を見て思うことがある。台風などの自然災害で被害が出ると分かって、満員電車や飛行機が平常どおり運航できると考える人が大勢いるが、彼らは完全にメイド・バイ（インではない）・ジャパンの低性能交換可能なパーツ程度に成り下がっている。さらに輪をかけて係員にクレームを言う始末である。こんな責任転換上手で、無計画な大和民族が「成熟した東アジアなんかか社会」な

## 遺伝子劣化、 ススキノ劣情

Vol.21



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

んで作れるのか？ 確かに映像的には、人的被害を映し出すことの方が、

視聴者にアピールしやすいのだから、毎回こんなものを映し出されてもウンザリするだけだ。

面白い話を聞いた。近代人類の歴史を見ると、先進国の中でも発展するのは地震や台風などの自然災害が多い地域だ。日本では太平洋ベルト地帯（なつかしい響き

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

だ)であったり、米国ではカリフォルニアやフロリダだったりするのを見ると、災害の被害と人類の発展は関係ありそうだ。

世界どこに行っても夏より寒くなる冬、特に北海道や北日本では積雪被害が加わることになる。昨年(2月28日)29日の吹雪はひどかった、前日から荒れ始めまる24時間吹雪きっぱなしの状態だった。翌朝起きると家の前の道路は完全に埋まっていた、身動きが取れない状態だった。あくまでも自分のまわりの話だが、過去10年間温暖化のせいかわいか分からぬが、吹雪で道路が閉鎖されることなんてなかった。

その朝、用事があり1000m先の国道は空いていると思い、280馬力ジョンディア・トラクターにブレードを付け除雪を始めると、奇妙な光景が目に入った。数台の車が動かないで、50m間隔の吹きだまりの間で止まっているのだ。近くに寄り車の中に人がいるのか確認したら、運転手が「来るのが遅い」と怒っている。たぶん国道を除雪する業者と間違えたのであろう。

その後、トラクターで5台程度を引き上げ、国道を1kmほど除雪したところに、本物の除雪業者が現れ、国道再開となった。結局、誰からもありがたいの感謝の言葉をかけられ

ず、自宅に戻ることになる。

世の中こんなものなのだろうか。前日から吹雪くと分かっているのに、冬の天気も確かめず車で出掛け、雪の中で12時間も我慢する、近くの民家に援助を求めたこともない。そして基本の挨拶もない。これって日本人の美徳ですか? 口数が少ないのは賢いことですか? こんなことは危機管理の問題ではない。まして学校教育や会社では教えないと思うが、**人間としての生存をかけたDNA**が排除されているのではないだろうか。昨今の人口が少ない、子供が少ないのも女性の問題ではなく、去勢野郎しかいないことは日本の危機である。と言うことは将来たくましく生きるために、海兵隊のDNAを挿入する組換え技術の登場に問題はなさそうだ。

なぜ、そのようなことを言うのかだつて? 吹雪に閉じ込められた運転手には明らかかな特徴があり、若いカップル、まじめな公務員、研究者風(事実、某研究所の人がいた)が目立った。若いカップルであればイチャイチャ車の中で過ごせるだろうが、いい大人が子供たちに生きる大切さを教えないでどうするんだ。

おまけがあった。実は除雪業者が少し離れた場所において、一晩中、燃料を埋まっている車に無料で配って

いたのだ。それはそれで素晴らしいことではあるが、理由を聞くと以前、親切で車を引き上げ時は、フレームが曲がったとイチャモンを付けてきて、親切ヘルプ作業はやらなくなつたそう。どっちもどっちである。親切をあだで返すバカもいれば、引き上げ作業を助けないで燃料配りをして、除雪の邪魔を促進させるように指示する組織があるなんて、ほんと、日本は裕福で余裕のある国だと勘違いしてしまいうさ。

## 雪を掘る手間が減り アスを掘る事になった!?

雪は道路だけではなく、畑でも1mを超えるのが普通だったが、1993年の冷夏の頃から積雪が少なくなつて来たように感じる。その後少ない年では50cmの積雪と言うこともあり、本年でも75cm程度である。その結果、1haあたり1万円程度かかる炭カルを黒く着色した融雪剤なるものを、3月に散布する必要もなくなり、浮いたお金で**ススキノのカマバー**で50回は遊べる。

ちなみにこの行きつけのオカマバーには地元JA職員が出入りしていると、おねーたま達から聞いた。それも長沼名物のジンスカンを持参して口説いているらしい。あ、JA職員と兄弟に? なつてしまうの

か。コリヤいかん、なんとしても彼女の貞操は守らねばならない。

私の御指名は綾〇嬢だ。初めて見た人は100%勘違いする小悪魔の娘である。それに彼女は有名大卒、某試験場で小麦耐冷性の遺伝子をイネに入れる仕事をされていたそう。彼女の元上司の話によると、勤務が始まった時は男だったが、1年後にやめる時は完全に女だったそう。究極のバイオの世界ってことかな。

彼女は私が現れると「キャー!アグリメート♥」とピンクの声を出して迎えてくれる。将来は十勝でナガイモとそばを栽培し、自家工場で製品・販売までやりたいと、まるで**道庁農政**が喜びのことを考えている。

読者のみなさんもススキノに行った際は彼女を応援してくださいね。1人で行くことはないけれど、海外や道外の友人と行くことが多く、やはりこのようなニューハーバーに行くとなるとやはり緊張するらしい。しかし会話やショーが始まると、あんなに外資バイオ関係の女性は「彼女たちはどこの化粧品使っているの?」なんてマジ質問するようになる。このススキノにある、女性客が7割のお店は「ららっ」(営業時間20時)電話011-512-7000)はスペインの日本語ガイドブックにも載っているチョウ優良店である。